

瀬戸内に建つ、400年の歴史

寺ども かわら版



徳成寺 とく じょう じ

第219号 2025年3月 発行責任者／住職・大山健児 坊守・大山ひとみ

できるはずだと思いが上がるから、行き詰るんです。 篠田桃紅 とうこう



篠田 桃紅さん

たそうです。仏様と心を通わす事も、到底出来ないかもしれないからこそ、行き詰ることなく取り組めます。 以前、「できる限りのことしかないのは、小賢しい人間のすること。愚かな人間は、自分を超えた仏の願いに一生を捧げる」と教えられたのを思い出します。

世の中安穏なれ

大山超世の耳を澄ませば

お世話になっていきます、副住職です。今回は「世の中安穏なれ」を取り上げます。親鸞聖人の書いたお手紙の中の言葉です。安穏とは心やすく、穏やかであると言う意味です。聖人が生きていた時代は戦乱の世の中で、生活の中に命の危険が含まれていました。

で悲劇的な物語という素直な見方が主流でしたが、最近は叔母と折りが合いが付けられない兄の自業自得と言う読み方が主流になりつつあるそうです。

住職の大山です。先月号のかわら版で、再スタートした矢先ですが、その途端に14年間使い続けたパソコンが動かなくなってしまう、もう今回は発行できないかもと弱気になっていたところ、出会った言葉が冒頭の107歳まで、美術家として活躍した女性の言葉です。

現代日本は命の危険がない分マシですが、日々を過ごす中で安穏とは程遠い世の中だと感じます。最近聞いてびっくりしたのが、アニメ映画「火垂るの墓」の見方です。2人の兄妹が戦災で親を亡くし、叔母の家で暮らすようになるのですが、邪険に扱われることに耐えかね兄妹は家を出て行くも、厳しい現実が立ちはだかる物語です。公開

物語は普遍的ですが、私達の状況が変わると物の見方もぐると変わってしまう様は切ないというか、余りにも人間を見失っている気がします。だからこそ願わずにはいられない思いが「世の中安穏なれ」という言葉に込められている気がします。

「永遠にやったって、できないに決まっていることを、自分はやっているから行き詰るといことがない」とも語っておられます。

出来るはずだと思つて、取り組むようなことはたかが知れている作業なのでしょう。そこを超えて、人と

比較べたり人に合わせたりせずに取り組んだので、お仕事を長く続けられ

出来るはずだと思つて、取り組むようなことはたかが知れている作業なのでしょう。そこを超えて、人と比較べたり人に合わせたりせずに取り組んだので、お仕事を長く続けられ

出来るはずだと思つて、取り組むようなことはたかが知れている作業なのでしょう。そこを超えて、人と比較べたり人に合わせたりせずに取り組んだので、お仕事を長く続けられ



火垂るの墓のジャケット